

2006 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期日

2006 年 10 月 25 日（水）～27 日（金）

2. 会場

ウィルあいち（愛知県女性総合センター）
（名古屋市東区上豎杉町 1 番地）
<http://www.will.pref.aichi.jp/>

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「III. 研究発表要領」をご参照下さい。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 25 日）

午前：口頭

午後：口頭，ポスター

第 2 日（10 月 26 日）

午前：口頭

午後：授賞式・受賞記念講演，シンポジウム，懇親会

第 3 日（10 月 27 日）

午前：口頭，ポスター

午後：口頭

5. シンポジウム

大会第 2 日（10 月 26 日）の午後に開催予定です。テーマは「台風 - 伊勢湾台風から 50 年を経て -」です。

6. 懇親会

以下の通りに開催が予定されています。

日時：大会第 2 日（10 月 26 日（木））

18 時 30 分～20 時 30 分

会場：アパホテル名古屋錦

（名古屋市中区錦 3-15-30）

7. 大会ウェブサイト【2006 年 6 月 27 日（火）開設予定】

本大会では、講演申込み受付や大会プログラムの掲載などを行うための大会ウェブサイトを、2006 年 6 月 27 日（火）より開設する予定です。URL 等の詳細につきましては、気象学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>）をご参照下さい。

8. 重要なお知らせ

本大会では、都合により大会参加のオンライン事前登録及び大会参加費・懇親会費のオンライン事前支払いなどに対応できません（ただし、オンラインによる講演申込受付は行います）。このため、大会参加の事前登録及び大会参加費・懇親会費の前納につきましては、旧来どおりの郵便振替（用紙は「天気」6 月号に添付）で行うことになりました。

また、大会参加費と懇親会費の支払区分や金額などの詳細な情報につきましては、「天気」6 月号および気象学会ホームページ上でお知らせします。

会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解下さいますようお願いいたします。

II. 講演申し込み要領

1. 講演申込手順（オンラインで行う場合）【推奨】

- ・締め切りは 2006 年 7 月 25 日（火）です。
- ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・講演登録が完了すると受付番号が表示されます。

受付番号は登録した E-mail アドレスにも送付されます。受付番号は予稿原稿の送付の際に必要となります。

- ・予稿原稿も同時にウェブサイトを通じて送付できます。ただしファイル形式は PDF（容量の上限は

1 MB) に限ります。

- ・講演申込み締め切り（7月25日（火））までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替え、講演申込みの取り消しなどを何度でも行うことができます。
- ・ウェブサイトを通じて予稿原稿を送付できない場合は、ウェブサイトで申し込みを行って受付番号を取得してから、予稿原稿のみ講演企画委員会事務局（送り先は次項をご参照下さい）に郵送して下さい。封筒の表には受付番号を明記し、更に「講演申込」と朱書して下さい。ただし、この場合には原稿は7月18日（火）必着となりますのでご注意ください。

2. 講演申込手順（郵送で行う場合）

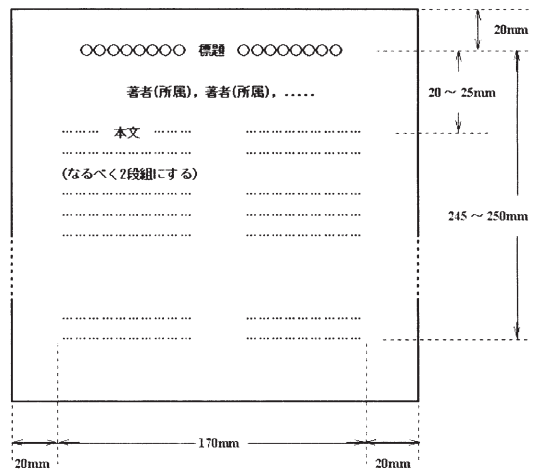
- ・締め切りは2006年7月18日（火）です。オンラインでの申し込みと比べて締切日が1週間早くなっていますのでご注意ください。
- ・「天気」2006年5月号に綴じ込みの「講演申込用紙」に必要な事項を記入の上、「予稿原稿」を同封の上で講演企画委員会事務局（送り先は下記）までお送り下さい。封筒の表には「講演申込」と朱書して下さい。

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
 気象研究所予報研究部内
 気象学会講演企画委員会事務局

3. 予稿原稿作成要領

- ・原稿サイズ・枚数：1件あたりA4判1枚とします。
- ・作成方法：大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）とします。郵送する場合はA4用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。
- ・印刷：原稿はB5サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合があるのでご注意ください。

- ・配置（付図参照）：記載範囲は縦250mm×横170mm以内とし、上部には20mmの余白をとって下さい。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は20～25mmとして下さい。本文はなるべく2段組（左半分→右半分）にして下さい。
- ・著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図： A4判用紙による予稿原稿の作成要領

4. 大会参加費、懇親会費の支払い

(1) 支払方法

- ・郵便振替による前納（用紙は「天気」6月号に添付会員のみ）、または当日受付によります。
- (2) 大会参加費・懇親会費
- ・大会参加費と懇親会費の支払区分や金額などの詳細につきましては、「天気」6月号および気象学会ホームページ上に掲載いたします。しばらくお待ち下さい。
- (3) その他
- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。

III. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の2種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は2件以内とします。

ただし類似テーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭/ポスター）については講演申込時に選択できますが、申し込み件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

スペシャル・セッション（内容についての詳細は「IV. スペシャル・セッションのご案内」参照）に申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査して、スペシャル・セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。発表方法は口頭発表に準じますが、世話人の判断により、講演持ち時間について若干の変更があり得ます。

スペシャル・セッションに申し込まれた発表が、世話人によってスペシャル・セッションに適さないと判断された場合には、一般の口頭発表に振り替えます。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って

頂きます。

- ・掲示スペースは縦120cm×横90cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、いずれもPCプロジェクターとOHPが使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- ・OHPを使用したい場合は、講演申込時に届け出て下さい。講演申込時に届けがない場合はPCプロジェクターを用いた発表とみなします。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で、発表順を繰り下げたり、OHPによる発表に切り替えて頂くことがあります。このため、最低限の発表が出来るだけのOHPシートも用意しておいて下さい。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、オンラインの場合は要望欄に、郵送の場合は講演申込用紙の欄外に具体的に記入して下さい。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

8. その他

- ・申し込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無

関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でないと講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めない

ことがあります。

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

IV. スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の4件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

1. 「高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性」

趣旨：計算技術の進歩により、気候モデルも高解像度時代を迎えた。高解像度気候モデルは、熱帯で特に重要な対流雲等小規模擾乱を再現し、これにより、主に対流圏大気気候研究の飛躍的発展が期待されている。一方、積雲と同様パラメタリゼーションにより表現されることの多かった重力波等小規模擾乱も陽に表現できるようになったことから、高解像度モデルの中層大気科学研究への応用もタイムリーであると思われる。また、大規模風速場による移流が物質分布の薄層化・混合をもたらすという従来の成層圏物質輸送・混合過程の概念は、重力波等小規模擾乱を陽に表現する高分解能モデルでも成り立つのかどうか、明らかではない。そこで、このセッションでは、高解像度気候モデルを用いた先行研究、重力波パラメタリゼーション、ラジオゾンデや衛星等による観測事実、重力波以外の小規模擾乱の重要性などについて、レビューを中心に、新しい関連研究の発表も加え、高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性について議論したい。

世話人：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）、高橋正明（東京大学気候システム研究センター）、渡辺真吾（地球環境フロンティア研究センター）、富川喜弘（国立極地研究所）、河谷芳雄（地球環境フロンティア研究センター）

2. 「台風災害への対応を考える」

趣旨：2004年は台風の当たり年で、過去最多の10個が本邦に上陸し、全国的に多くの被害が発生した。また、2005年に入って上陸数は比較的少なかったものの、台風0514は、記録的短時間大雨情報の基準に達しないまま各地の総雨量を多数記録更新するという、特異な台風であった。一方、北米においては、ハリケーン・カトリーナの予報はほぼ的中したにもかかわらず、未曾有の大災害が発生したことは、よく知られている。本スペシャル・セッションにおいては、こうした台風について、①台風予測の実際と反省（特に災害発生が想定されるエリアの特定など）、②台風予報（警報・注意報）の発表のありかた、③台風情報の報道・伝達のありかた（伝達者側の問題点など）、④台風情報の利用・活用（利・活用者側としての問題点など）、⑤台風時の防災活動の現場の実際といった切り口での発表を募り、今後の台風防災のための研究対応について資を得ることとしたい。発表は、上記①～⑤の区分にとらわれることなく、複合した内容でもよいので、多数の講演応募をお願いしたい。

世話人：弘中秀治（日本気象予報士会）、植松久芳（日本気象予報士会）、伊藤 浩（名古屋地方気象台）、岩田 修（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）

3. 「惑星大気の科学」

趣旨：近年、金星や火星、木星などの惑星大気に関する研究に多くの進展がみられる。アメリカによる火星探査、ヨーロッパや日本による金星探査計画が実行段階にあるだけでなく、望遠鏡を用いた惑星大気の地上観測にも関心が集まっており、新たな観測事実も蓄積されつつある。この特別セッションでは、惑星大気に関する研究の現状を整理し、今後の展望を議論したい。

世話人：中島健介（九州大学大学院理学研究院）

4. 「2005/06 年の異常な冬について」

趣旨：2005 年/06 年の冬の天候は、極めて特徴的なものとなった。すなわち、12 月を中心とする冬の前半の大寒波及び日本海側の大雪と、一転して後半の暖冬とである。冬季の極東域のこのような変動は、学術的な興味が大きいのみならず、社会的な影響も非常に大きい。したがって、極東付近の冬季の変動の原因を特定、解明することは極めて重要である。このことは、冬の長期予報の精度向上にもつながると期待される。そこで、2005/06 年

の冬季を中心に、極東付近の冬季の変動に関する研究をまとめて発表議論する場が必須と考え、このセッションを計画した。数値モデル、予報、観測そしてデータ解析など、幅広い分野からの多数の研究者の参加を期待している。

世話人：平沢尚彦（国立極地研究所）、本田明治（地球環境フロンティア研究センター）、猪上 淳（地球環境観測研究センター）、高谷康太郎（地球環境フロンティア研究センター）、中村 尚（東京大学理学系研究科/地球環境フロンティア研究センター）

V. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の

講演を認める。

2. 上記規定を明確にするために、講演申込用紙に講演者の会員番号（非会員は会員である共著者の会員番号）の記入を義務づける。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VI. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: msj06a@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会の一般講演と同じ

記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容